

# 第61回 公開講座

## 美作改宗一件

日時 2010年5月28日（金）13：00～14：30

場所 千里山キャンパス 尚文館 1階 マルチメディアAV大教室

講師 吉田 徳夫（法学部教授）

美作は、今日の岡山県北部地域の旧国名で、幕末に差し掛かる時期、天明年間に発生した事件である。岡山では「渋染め一揆」が著名な事件として知られているが、改宗一件は同一地域に発生した事件であるにも関わらず、注目を浴びてこなかった。この事件が改宗一件と言われているところからも察することはできるが、江戸幕府が被差別部落に向けて起こした宗教事件である。

部落問題は差別と貧困という側面だけではなく、宗教問題とは密接な関係がある。我々の現代社会があまりにも脱宗教的な世俗社会であるという考え方にに基づき、部落問題と宗教問題とのかかわりをことさら看過してきたところに原因がある。しかし、前近代社会は宗教と大きな関わりがあり、その為、部落問題も宗教的性格を抜きにして語ることはできない。

人権問題研究室の部落問題班は以上の関心に立って部落寺院に関する研究を続けてきた。この研究は、今なお部落には部落寺院組織があり部落門徒が歴然としてあり、この組織に依存する仏教側の問題がなお残されている。まだまだ部落問題の課題が残されているように思える。

江戸時代の宗教事件は、キリスト教をめぐる迫害事件、浄土真宗をめぐる様々な事件がある中で、幕末に差し掛かる天明年間に発生した改宗一件は、部落問題史上のみならず、日本の思想史上の大事事件である。それは平常時に、江戸幕府が部落門徒に対して一斉に真言宗から浄土真宗本願寺派への改宗命令を発した事件である。幕末から明治維新には隠れキリシタンが摘発され、強制改宗の大掛かりな迫害があったが、それより約百年前に仏教で強制改宗事件があった訳である。

この事件の顛末を追いかけると、注目すべきことは、なお非改宗を維持する部落門徒の様相が、我々の調査で明らかになったことである。われわれ近代、現代人は、簡単に思想の転向を行ってきた歴史を知っている。解放運動も然りである。人間の精神の粘り強よさというものを失いかけている。美作改宗一件は、権力の改宗命令という側面と、それに抵抗した側面があり、学ぶべきことは色々あるように思う。

\* \* \*

●聴講無料 予約は不要です。多数のご来場を歓迎します。  
手話通訳が必要な場合は、5月20日(木)までに人権問題研究室へご連絡ください。

第63回 10月22日（金）13：00～14：30 「『障害者権利条約』を通して社会を見る」（仮題）

第64回 11月26日（金）13：00～14：30 「ハンセン病問題にみる隔離と排除について」（仮題）

会場は、尚文館 1階 マルチメディアAV大教室



THINK × ACT  
KANSAI  
UNIVERSITY

関西大学人権問題研究室

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 阪急千里線「関大前」駅下車  
Tel 06-6368-1182 Fax 06-6368-0081

ホームページ <http://www.kansai-u.ac.jp/hrs>